

第37回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成23年10月11日 18:30~20:00

場所 児島市民交流センター

要約版

《市長》

こんばんは。今日は夕方ご飯時でお忙しい中に、こちらにお運びいただきまして、誠に有難うございます。他に、非常に大きなホールがあるんですけども、これだけ人数が入る所が他にないため、声が非常に反響しまして聞こえにくいかと思っておりますけれども、是非ともよろしくお願ひしたいと思っております。今日はここ児島市民交流センター、児島公民館が新しくなって初めて、こちらでの市民ふれあいトーク開催とさせていただきます。テーマは、「地域力を活かすまちづくり」、この児島のまちづくりにつきまして、皆様のご意見とか、こういうふうにしたらまちづくりが良くなるんじゃないかというお話をお伺いできればと思っております。最初に、少し私から児島地区の最近の進捗状況とか課題とかについてお話をさせていただいて、続いて皆さんとの間で意見交換や質問とかをさせていただければと思っております。今日はこの児島市民交流センターがオープンして、10日位しか経っていないわけでございます。今日の会に来られる前に、既にこの市民交流センターに来られたことがある方どの位いらっしゃるでしょうか。大体6割ぐらいの方は来ていただいて、それ以外の方は今日初めてこの建物に入られたのではないかと思います。児島地区のまちづくり、都市整備計画の中で、この児島市民交流センターの位置付けは、非常に重要でございます。この児島駅から野崎邸に至る児島駅前を中心市街地、ハッピータウンも含めて、児島駅前の公園を平成21年度に整備して芝生の広場を造ってございます。そこから民話通りを挟みまして、ファッションセンターと、児島の産業振興センターを今年4月にオープンしました。もともとマウントフット大学だったわけですが、児島地区の繊維産業をはじめとするまちづくりに関して、しっかり取り組みをしていこうと、産業振興センターを整備して、中を改修・整備しました。そこからこの児島の市民交流センター、文化センターのエリア、商店街、ジーンズストリート、野崎邸に繋がっていく場所を、児島地区の大きな中核施設と考えております。折角ですので、今日入られて中をご覧いただいた皆様にも、この建物について簡単にお話をしたいと思います。今、皆様、こちらの旧架橋記念館のホールにいらっしゃいます。こちらが新しい図書館・ホール棟です。公民館の機能、そして図書館。それから児島の「ジーンズホール」と名前を付けまして、大きな、約300席弱のホールを設置しております。上には太陽光発電を設置し、別に芝生による緑化部分をかなり設けております。我々がいる所ですが、架橋記念館を改修しまして、中の会議室とか、公民館機能の部分を、交流棟という形で位置付けしております。こちらでは、芝生広場を上を持ってきて、この辺の橋の所を地元とご相談し、撤去しまして、なるべく明るい区域になるように建設しております。この児島の図書館ですが、再整備によって良くなった点ですが、本の数が約1.5倍になっております。これまで他の地区よりも図書が数万冊少なくなっておりました。そこで、10万冊だったところを今回15万冊に、開架で見えていただけるようにして、使っていただきやすい施設にしております。ジーンズホールも、「繊維の町児島」を象徴するものとしたしまして、普通のホールや緞帳ではなく、何か出来ないものかということで、繊維産業の皆様にご相談をいたしました。そしてこのホールに「ジーンズホール」の名前を付け、緞帳をジーンズの生地で作りました。

またジーンズの生地ですが、実は青色が何層かになっております。1色の青だけではなくて、下は水平線の海の青、そして空になってまた違う青色になっていくように、何色か使いまして、児島のジーンズをPRできるものとして、作成しております。あわせまして、少しでも使っていただきやすいようにと、バスの広場も、再整備をこのようにいたしている所でございます。

それから、この児島地域の大きな課題なのが、児島市民病院のことと思います。以前のように、何とか岡山大学の系列病院にと、岡大に何回も科目の先生に来ていただくたびにお願いに行きました。岡大は今、全国的にも移植や最先端医療で、非常に注目されている大学でございます。この児島の市民病院を、元のように岡大の系列に戻してもらうことが、何とか実現しまして、内科の先生をはじめとして、安定的に先生に来ていただいているところでございます。まだ産婦人科の再開が出来ておりませんので、これも勿論望みを持ってやっております。何とか元のように、児島でお産をしていただけるようにという思いで、つい先日も岡大の産婦人科の教授の所をお願いに行ってまいりました。色々な周辺環境とかが整備をされていけば、産科を再開することができるんじゃないかとか、そういう話を岡大としていただいております。市民病院としては、江田院長先生をはじめ、いい先生に来ていただいております。外科の先生は、週1回は岡大の第二外科の教授先生が来て下さっておりますので、非常にレベルの高い病院にまた戻ってきていると思います。もしも病気になったら、是非とも市民病院へ、足をお運びいただけたらと思っております。

それから、この地域では特に最近、大変皆様にご協力いただきましたのが、夏のトライアスロンでございます。商工会議所さんが中心になって行っていただいた前のトライアスロンから、約2年を経まして新しく行う事ができまして、これも地域の皆様方の、本当に大きなご協力のお陰であると思っております。全国より参加をされた皆様から、「やはりこの児島のトライアスロンは、他の地域のトライアスロンと全然違う」と、今回も言って下さってました。ゴール地点で、私もフィニッシュタオルを選手の皆さんに1枚ずつ掛けたわけですけどその時に、やっぱりこの大会を再開できて非常に嬉しいことと、何よりも地域の皆さん、今回は地元の中学校や高校生の皆さんも手伝いをして下さりまして、そういう皆さんの応援があってこそ、ゴールまで来れたと随分言われておりました。今回は初回だったので、不手際の所も多かったと思っておりますけれども、皆様のご指導をいただいて、いいものにしていければと思っております。

そして鷺羽山、王子が岳に至る国立公園の整備について少しお話をしたいと思っております。鷺羽山と王子が岳ですが、最初の国立公園で、今お客さんの数が増えてきております。国内の、特に西日本の観光という面では、リーマンショックとかで景気が非常に悪くなったんですが、少しずつお客さんの数も増えてきていると思っておりますので、今日は是非ご意見をいただければと思うんですが、PRをもっと内外に向かってしていく事が非常に必要ではないかと思っております。何かいい知恵が有りましたら、是非教えて頂きたいと思っております。

もう1つ大きなこととお話をしたいと思っております。防災ですが、9月の3日と4日に台風12号が瀬戸大橋に沿ってこちらに来まして、市内でも非常に大きな被害となりました。児島地区でも大変な被害があったわけですが、実は市内でこれまでで一番多い量の雨が降りました。倉敷市内の气象台のアメダスが、1日で183.5ミリ降りまして、これは倉敷の气象台が35年に始まって以来、一番多い分量でございました。ですが、倉敷市内の各支所や消防局に設置をしておりますセンサーでは、軒並み200ミリ位、二百十何ミリ

とか越えておりました。その中でも郷内地区では、何と局地的にこの倍の413ミリの雨が降り、それで山崩れが起きました。どうしてそこだけが多く降ったのかは判らないんですが、とにかく郷内地区、曾原、それから広江の交差点の近くまでは、非常に雨が降りました。それでこちらの児島地区でも、ご存知のように小田川水系の所と下村川の水系と2つの地区が、平成16年よりは少し少しだったとは言っているんですが、随分雨が降りました。特に今回は、中からの水の氾濫が有ったのではないかと思います。平成16年の時には、高潮でこちらから水が逆流して来たという事で、それへの備えは16年以降、県と協力をしまして、嵩上げをしたりしました。そこは何か大丈夫だった所も今回は多かったんですけども、上からの水の分量が非常に多かったということもありまして、特に小田川水系は浸水をした地域が多く出てきております。市でも、今後の対策をとっていかなければならないと思っております、後ほど是非ご意見をいただければと思うんですが、今、県と色々意見交換をいたしております。今回児島地区は大体こういう状況だったんですけども、実は市内全域で、通常の約1.5倍降ったということで、先日も県に要望に行ったんですが、特に倉敷・水島地域が、児島、流末が児島湖に流れ込む所と、それからこちらの高梁川に出る汐入川の水門の所と、処理能力がこれまでと大きく違ってオーバーしてしまいました。特に児島湖は、倉敷市の川だけでなく、笹ヶ瀬川や岡山市の川も随分氾濫して、水が引かなくなりました。今、我々が分析しているところでは、児島湖の水門を開けましても海の高さとの関係で、なかなか水が外に出ない状況になってしまいました。それから、児島湖の水門から我々の水が出ましても、そのまた東側には旭川がございまして、こちらの上から莫大な水が流れてきて、そこでまた水が堰き止められてしまったような形で、結局この児島湖全体から海に水が出にくい状況になったのではないかと、今分析をしております。

抜本的に、直ぐには難しいんですけど、元々児島湖の水門を造りました農業用水・排水関係の、農水省とか国交省に今相談をしているところでございます。こちらは海に直接ですので、話は違うんですけど、今回の台風災害の状況、今後の対策について、また後ほど皆さんと意見交換をさせていただければと思っております。

私ばかり話してはいけませんので、そろそろご質問をいただきたいと思っております。私はこの児島地区は、市内でも非常に個性と魅力のある街であると思っております。全国からの注目も、非常に高いと思っております。今ハードも少し整備をすることができたんですが、それ以降の発信の面で、もう少し、これまで以上に、もっともっとやっていたかなければいけないと思っております、そういう面などについては是非ご意見などもいただければと思っております。勿論防災のことも沢山ご意見いただければと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、ご意見をいただける方は手を挙げていただけると。有難うございます。それでは一番前からお願いします。

《参加者Aさん》

防災の件で申し上げます。うちの家も上から土砂が流れ込んで、床下浸水にはなったんですけども、それを全部防げというのは多分無理だと思うんです。ただ、問題は、その後、届け出を出そうとした時に「あれは産業課、これ土木課、これ福祉事務所」何枚届け

を出すのかという話になりまして。何日か経ってやっと窓口が支所に出来まして、そこへ行って色々受付をしていただいたんですけども、用水路が埋まっているのは土木課の人が見に来て、うちには全く来ず、そのまま帰るといような。結局そのような縦割りの問題があるのかなど。これは防災という以上に、何か起きた時に情報の流れが一本化できるようにしていただかないと、色んなものが進んでいかないんだろうなというのが、1つです。

もう1つ。ここの駐車場ですけど、2時間無料になっていて、今週から始まる講座も、ちょうど2時間なんです。準備と片づけを入れると、30分ほどはみ出るもんですから、何とかならんもんかなというのが、講座生皆さんの意見なので、ここで言うておきます。

あと、情報発信の問題とか全部含めてなんですけど、ふれあいトーク、ずっと僕も参加させてもらってきてるんですが、未来を考えた時にもうちょっと若い人に意見を聞く機会を作っていけないといけないんじゃないかなど。で、大学祭みたいな所でふれあいトークをやって、学生の意見を聞く機会を作ってあげる方がいいのかなと思うんです。なかなかこういうところへ出て来れないんじゃないかなと思っていますので。

《市長》

今回何日かしまして市民相談窓口を設けました。すぐ月曜日から設けられれば良かったんですけども、なかなか体制ができず数日かかってしまい申し訳なかったんですけども。各支所、それから特に児島地区・郷内地区の公民館、玉島や水島地区にも設けたんですけど、特に浸水被害が数百戸単位で出た地区に、市民相談窓口を設けました。もうちょっと数を増やせばよかったのかなという反省もあるんですが。今後、災害があった時には、なるべく早い地元での市民相談窓口の開催と、それから今言っていた情報共有ですが、今回非常に反省点にもなっておりますので、こっちに出したら、他の関連部署にも行けるように情報共有を、もっとやっていきたいと思っております。

それから当市民交流センターの駐車場のことですけど、この市民交流センターを造る時に、駅から比較的近いので、無料にするのは難しかったです。それで2時間無料ということで、図書館もそうです。図書館は、申し訳ないですが3時間いたいと思ったら、一回パウチをして、とは聞いてるんですけども、今のところ事前のご相談を通じて、2時間まで無料となっております。これが皆さんご利用いただく中で、その建物の収益の面と、例えばもうちょっと長くしても、やっていけそうだということがあったら。色んなご要望が有ると思います。部屋の利用料金が安い方がいいとか、駐車場がもうちょっと長い方がいいとか、後30分でも長い方がいいとか。そういうのがあると思いますので、指定管理者のサービスの中で、今後、館内全体の収益を見て、サービスが良くなる部分があったらとは思いますが。今のところ条例で2時間まで無料と書いてありますので、すぐ変えるのは難しいんですが、今後、皆様からの色んな要望を大きなものとして、私もしっかり心に留めまして、指定管理者と相談するとき、どうなんだろうかと聞いていきたいと思っております。まだ始まったばかりで、直ぐにはできず申し訳ないと思っております。是非ご理解いただきたいと思っております。

それから3つ目は、若い方のアイデアを色々取り入れてはということで。私が是非取組みたいと思っているのが、児島の短期大学をもっと活用していきたいことです。それで産業振興センターに、新しく起業したい方に、安く部屋を提供する仕組みがあるんですが、まだ、うちの短大生が卒業して、起業する申込は無いんですけども。せつかく服飾美術

学科がありますので是非とも私は、短大の学生さんが、卒業して是非この児島の地で、将来会社を起こしたり、デザイナーとして独立したりして、児島の為に役に立つとか、そういうものが出来ればいいなと思ってます。確かに大学とかで若い人の意見を聞く機会が少ないと思いますので、今後検討したいと思います。どうも有難うございました。

《参加者Bさん》

児島市民病院のことが出ましたので、「地域力を活かすまちづくり」、そのテーマの一端として、地域の市民病院の再建について述べさせていただきたいと思います。私は20年前の平成3年に、児島に小さな家を建てて、名古屋から引っ越してきました。東京、名古屋、大阪と主人の会社が全国に支店がありましたから、30年以上、そちらに住んでおりました。こちらに来て最初に驚いたのは、市民病院が他の都市に比べて、非常にみすぼらしくったんですね。そして受診科の数も少なく、待合室で患者さんがほとんどいない。ソファは凸凹で汚れていて古めかしく、診察室は薄汚れていて、足元のリノリウムがちょっと剥げてた感じなんです。これが市民病院かと思って驚きました。是非、市民病院を再建して欲しいということで。今はかなり整備されて診療科目も増えてきて、かなり良くなってきましたけれど、まだまだちょっと古いなあという感じがします。3年位前に白内障で2週間位入院したんですけど、個室が雨漏りし古い感じで、かなり年月が経っているんじゃないかなあと感じました。お風呂も不潔な感じで狭くて、料金はそれに比べてやや高い。一般の都市圏の個室に比べたら、うんと安いですけど、設備ですよ。今地震が色んな所で起こっていますし、東南海地震も来る可能性があると思いますので、地域の大災害時の中核病院として機能を果たせられるように、是非新しく再建して欲しいです。よろしくをお願いします。それから、市民交流センターで昨日ちょっと拝見したんですが、図書館棟、とても素晴らしくて、私も時々来たいと思っております。なんて言いますか、自分発見の為に、是非図書館に。素晴らしい図書館が出来ましたので、今後の期待をしております。有難うございました。

《参加者Cさん》

最近聞いた話で、動悸がしんどうてならんから、市民病院に電話をしたら、今係り付けの病院がありますかと言われて、有りますと言ったら、そちらへ行ってくださいと言われて、その人は違う所へ行って、即入院と言われて、ものすごくしんどかったらしいんです。その話を2~3人から聞いたんですけど、最近、診てもらおうと思って、1時ごろにお電話したら、もう診察の時間は済みましたと言われて、診ていただけのんですかと言うたら、救急になりますよと。救急でも結構ですからと言ったら、では来る時にお電話してくださいということで電話をして、1時半頃に行ったんですけど、電話をしたらちょっと待ってください。内科と代わります。と言われて、内科の人と電話したんですけど、やっぱり係り付けの病院を聞かれ、ちょっとと言うと、係り付けの医者へ行ってください。その方がいいと思いますよ。という事を言われたんで、診てくれないんですか、と私が言っ。ちょっと待ってくださいと言われ、待っていると来て下さいと。時間どの位かかりますかと言うから、10分したら行きますと言って行ったんですけど、皆、体が悪うて行くのに、そんな言葉を掛けられたら困ると言われて。他の男の人がそれを聞いて、それは受付が市の職員じゃないかと。私は市民病院のことは全然判らないので、ここで聞きした

いと思ひまして。皆さん、それだから市民病院は人気が悪いんだとか、兄弟が病気で岡大へ行ったら、先生も看護婦さんも皆、ものすごく優しくて市民病院と大きな差があるということと言ったんです。だから、その辺がどうなっているのか、よその病院にかかってっいたら診てもらえないのか、そういう点について。

《参加者Dさん》

実は市民病院の売店を婦人会が運営してまして、月に3回位は売店に参ります。ちょうどその時に売店の斜め前に、お手洗いがあります。ところがそのお手洗いがとっても臭くて、お手洗いはその家の顔と申しますけれども、病院の顔としてはとても不衛生です、臭いですし。やっぱり一事が万事、そんな調子だと思います。若い先生をお呼びしたい時とか、やっぱり綺麗な環境で生活されてこられた先生方には、そういう汚いイメージの病院には、赴任したくないんじゃないかなと思います。やっぱり病院の建て替えて、市長さんには頑張ってくださいと思います。よろしくお願ひします。

《参加者Fさん》

私が直接会ったわけではないんですが、今私は、ある施設で夜警の様な仕事をしてるんですが、そこの患者さんが市民病院に行かれて、眼科だったと思うんですが、先生はものすごく良くしてくれるんですが、先生が、看護師さんを恐れるというか、何か気を遣いながら先生がされると。先生がものすごくいい先生だったと聞いたので、やっぱりそういうことが往々にしてあるのかなと。そういう体質を直さない。設備はお金がかかるでしょうが、人の教育をしないと、多分良くならないんじゃないかと思ひまして。

《市長》

大変有難うございました。市民病院のことについて、まとめてお話をしたいと思ひます。最初に、受付の電話があまり良くないということですね。今、トイレが汚いということ、看護師さんの対応ということですね。皆さんに共通するのが児島市民病院の今後についてのことと思ひます。今の市民病院の建物は昭和47年に出来ておまして、40年位経ってきております。それで雨漏りもする所もあるので、今のところは個別に修理をしたり、機械は私が来てから随分新しいのを入れました。今来てもらっている江田院長先生は、岡山大学のホープの先生でございます。市民病院は40年経っておりますので、設備がやはりおっしゃるように、古くなってきております。40年経ちましたのと、今後の見通しということでは、早晚、建て替えについて検討をしないといけないと、勿論思っております。それで、市民病院の今後について、まず、岡大からしっかり先生が来てもらえる大学系列の病院にまた戻れるかが一番重要でした。これは何とかクリアしたんじゃないかと思っております。あとは、今お話に出たようなサービス、職員の受け答えとか、電話の面もまだで。先生がいなくて心配だということがあったんじゃないかと思うんですが。児島市民病院は、他の市民病院と一番違いますのは、地元の医師会の先生達と非常に密接に連絡を取っておりますので、どちらかという地元の病院と連絡を取って、そこから別に紹介料とかは要らないので、その地元の先生からの紹介状といいますか、容態も併せて病院に来てもらえればと多分思っただけでそう言ったんじゃないかと思ひます。ただCさんが言われるように、自分は今救急で、緊急で行きたいわけですので、その時にまた悠長に、地元の、

町のお医者さんに行くというのは難しいと思いますので、なるべくそのようなことが無いように、職員の教育もしっかりしていきたいと思っております。

今、江田院長先生は内科で、普通、院長先生は、あんまりドンドン、診療されないんです。でも、江田先生は自分からすごく診療されますし、それから土日の急患とかも自分で診られたり。先生たちとしては、非常にやる気を持って取り組んでくださっています。それから小児科の土日の診療とかも、救急も受けようというつもりでやったださっておりますので。それで産婦人科についても何とか再開をして、総合病院としてやっていけるというふうな思いでやっております。ですので、本格的な元の病院にまた戻る為には、もうしばらくお待ちいただければと思うんですが。ちなみにここ3年ほどは、随分赤字でございました。非常な赤字から、中位の赤字になって今、少し赤字になってきましたので、黒字化ももう直ぐではないかと思っております。通常、総合病院であれば、大体黒字になって建物の建て替えの為の貯金も作れるわけですけども、今そこまでなっていないんですが。私としては黒字化の目処が段々たって来た時点で、建て替えについて検討を開始したいと思ってるんですが。主としては児島地区の中核病院として、しっかりと今後もやっていけるという思いでおりますので、今後とも皆さん、風邪をひかれましては是非かかっていたいただければと思っております。改修できる所は、少しでも改修していきたいと思っております。

《参加者Eさん》

私は自治会を中心に、ボランティアをさせていただいてんですけれども、自治会としての意見を言わせてもらいたいと思います。この地区は大体自治会が中心で動いていると私は思います。そして色々な協議会とか委員会とかがありますが、自治会がしっかりしないと、多分そういうものもうまく行かないと思うんですけど、各協議会等には市の補助金とか援助金がおりにいると思うんですけど、自治会にはおりにないんです。前の市長さんの時も会って意見を言ったんですけど、コミュニティ協議会でまとめているからという話で、今コミュニティ協議会を設立したり、次々進んではおりますが。それもいいんですけど、やはり自治会としても定着してきて、自治会を中心に物事が動いて、色々なことをするのも自治会が動かないと、前に進まないというような状態になっておりますので。補助金の要綱等必要だと思んですけど、自治会にも援助を賜りたいと思んですけど。それで、もうやはり、今の時代は高齢化が進んで人口が減少しておりますし、私達までの時代までは何とかしても、次の代になると本当にこれがうまくいくかどうか、私は心配しているような状態なんです。しっかりと自治会についても、何かの援助をお願いしたいと思っております。

《市長》

お伺いしたいんですけれども、例えばどういう活動に対する援助とかを。

《参加者Eさん》

いろんな市の事業、ゴミの清掃とか市の配布物とか、社会福祉協議会の日赤とか、集金、回覧も。それから市の広報紙の配布など、あらゆる分野においてほとんど自治会が世話をしているのが実情で、その自治会にとにかく応援をお願いしたいと思っております。

《市長》

今の市の仕組みでは、各自治会単位で援助というのは行うのが難しい状況にはなっており、例えば自治会単位で、資源ゴミの回収とか、ゴミの集団回収をしていただいたら、補助金ではないですけど、そういうものとか。もしくは広報紙については金額が少なくなくて申し訳ないんですけど、1部当たりの、非常に少しですけども、お願いをしたりとか、そういうことで今、やっております、今の市の体制の中では、各自治会単位に直接、というのはまだないんですね。今後の長寿社会の中で私自身も市も、自治会に補助をしましょうとあって、それがそこだけでも物が完結するということではないと思っはいるんですけど、市の色んな福祉サービス、さっき言われた広報、サービスなどの全般的な中で、今後何ができるか検討するしかないかなと、思っているんですけど、直ぐになかなか自治会単位での補助金を、何十戸単位の自治会にはいくら補助金を出せませうというところまでは、ご返事ができるのは難しいと思うんですが。

《参加者Eさん》

結局、各協議会なんかには色んな支援金が出て婦人会にも色々ありますけど、どうして自治会には出ないのか、納得いかんのですよ。自治会が動かないとほとんど機能しない状態が続くというのは非常に好ましくない。何らかの措置をお願いしたいと思うんです。広報紙なんかはいくらか貰っておりますが、少しでもやっぱり。今は無償ボランティアという時代でも無いと思うんで、いくらかの有償というのも必要な時代ではないかと思うんです。自治会にしてもやる気のある方は動いとりますけど、能力があってもしてくださらない方もおられるわけですから、そういう自治会を支援する意味で、何らかの援助を是非お願いしたいと思います。

《市長》

今後の行政課題として、貴重なご意見有難うございました。はい、前の方からお願いします。

《参加者Gさん》

市民病院の話がありましたが、私の場合はたまたま家内が夜中に、ちょっと心臓の具合が悪くなって駆けつけたところ、親切に対応していただいて。しかもその時は江田先生で、あくる日は中央病院まで紹介していただいて、事なきを得たということでありがたかったな、と思っております。

防災のことについて、今日の新聞に出たように、これから豪雨の時代だと言われております。これは温暖化等々の影響かと思うんですが。今年も大きな被害を出した所もあるわけですが、何時我々がそういう災難に、巻き込まれないとも限らない。ただ、私は上の町4丁目なんですけど、大池の上流域から突発的に水が出るかもということから、4丁目地区にも避難勧告が出たんですね。勧告が出た際にうちに情報が来たのは、友達から「テレビ見たけど大丈夫か」という電話で気が付いたような状況で、今後そういうような防災面での連絡体制とか通報、そういうものがどうあるべきかと、緑ヶ丘と倉敷短期大学が避難箇

所になってましたが、そこまで行くのは非常に遠く、決壊するかもという池の下流域を通らなければ行けない。そういうことを考え合わせると、きめ細かい防災面と避難との対応が、今後必要なんじゃないかなと、我々も安閑としておられない感じを強くしています。これはもう倉敷市だけの問題ではなくて、地域住民を含めて考えていくべき問題ではないかと考えております。

それから先ほど市長が言われたように、ここを開いて10日ほど経つんですが、非常に多くの方々が、ここを訪れておられます。特に若い方々が、夫婦連れ・子供連れで来られるとか、そういう意味合いでこの位置付けは、非常に大きいんだなあと意を強くしておりますが、残念ながら、児島の場合は非常に交通の便が悪くて、ここに来たくても来られない方もおられるんじゃないかと思うんですね。現に私も講座を受けてましたが、既に何人かの方が高齢化と交通の便が悪いことで、やめざるを得なかったことがありました。そういうことを考え合わせると、直ぐそこに停留所があるんですが、時刻表も閑散としてますから、あれでここにアクセスせよというのは非常に難しいんじゃないかなと。私が考えますのに自転車等がもっと便利に使えるようになれば、いいんじゃないかと思うんですが、残念ながら児島は自転車が安全に走れるような所ばかりではない。通学する子どもの道でさえ非常に狭い状況もままありますから、そういうところをやっぱり改善していかないと、せっかく出来たい施設も宝の持ち腐れになってしまうんじゃないかなあ、と思ってますので、この辺もこれからの問題かなと思っております。

もう1つ、温暖化に関する問題で、倉敷市は色々電球の補助金とか、太陽光発電とか色々きめ細かくやっていたいんですが、ペレットストーブを是非、補助金対象に加えていただければ、一段と温暖化防止にも役に立つんじゃないかなあと思ってますので、併せてよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

《市長》

市民病院の対応が良かった例もありまして、大変安心しております。江田先生に伝えておきます。有難うございます。

防災面のことは、またご意見もあると思ひますので、それ以外のことを少しお話ししたいと思ひます。これは市内全般で、バスの便の少なくなっているのが、非常に課題になっています。下電さんもなるべく減らさないようにと、社長に何べんもお願ひに行ったりしてありまして、岡山などと比べては随分減らす数が少ないよう配慮して下さっているとは聞いているんですけども。これからの社会において、公共交通のあり方、さっきの自転車も含めてなんですが、例えば乗り合いタクシーなども含めて、もっと力を入れないといけないと思ひております。それで乗り合いタクシーについては、市の制度がありますので、例えば団地ごとに検討される場合には、是非ご相談いただければと思ひてるんですけども。一般のバスについては、もっとバス事業者との間の交渉が必要だと思ひてまして、今始まったばかりぐらいなんですけれども、交通体系の見直しですね。何べんもあるところを少なくする代わりに、横の道をもっと走ってもらうようにするとか、そういうことを進めていかないといけないんじゃないかと思ひております。

それから温暖化対策については、色んな施策を今とっているところなんですけど、ご指摘いただいたペレットストーブなどについて、色々研究をしてみたいと思ひております。CO₂排出が少なくなるような、指針になるような補助制度を、市としてははしていきたく

思っておりますので。貴重なご意見有難うございました。

それで、防災のこと、今回の台風のこととか、自分の地区がお困りになったこととか、まとめてお話をお伺いできればと思うんですが、手が何人か挙がっております。じゃあ、一番後ろの方からお願いします。

《参加者Hさん》

すでに市長さん宛てに、提言ということで、文章でお出ししてありますので、今日は掻い摘んで申し上げたい。その前に、こういう場を設けていただいたことに非常に感謝申し上げます。まず洪水災害による現状ですが、ご承知の通り先ほど来、お話に出ております平成16年10月における台風23号、私は小田川水系に関して意見を言いたいと思うんです。それから今回の23年9月の台風12号による小田川洪水による氾濫と、こういうのが立て続けに出ております。それで地域の住民も、どうにかならんかと切実な問題となっております。市長が言われたように、前回の16年の台風の時から、今回災害が減ったということですね。前回床上・床下浸水が60件ございました。私の町内でね。それで今回が34件。井戸、味野上、児島味野上1丁目、2丁目が私の担当区域でございます。その間に災害を被った人が、平成16年60件、それから今回が34件。ほぼ半減してます。これはどういうことかと言いますと、地元消防団に献身的かつ敏捷な土嚢配置を、各家の前に行っていただきました。それから排水ポンプを持ってきて、濁流を川へ排水したのが大きな原因で、浸水が減ったと考えております。それで今後の対策ですが、他にも書いとんですが、まず1点。小田川全体、柳田地区から河口まで味野・児島学区の大水による土砂・岩石ならびにへドロの堆積が著しいと思っております。まず、この排除が必要ではないかと考えております。

それから2番目。橋の構造といいますか、ちょっと大げさですが、橋げたより下に色々なものが障害物として残つとるわけですね。例えば名前を出しますけれども、NTTさんのファイバーケーブルが何十本もあるわけです。それが障害物となって、氾濫しとるように思います。

それから3番目。橋と道路のガードレールの間には大きな隙間がある。これ市長さんにもお約束しとんですが、今日、写真を持ってきてますんで、後、ご覧になってください。この隙間から道路に氾濫して、それが民家へ行くと。悪いことに道路の改修ごとに道路が高くなる。従って民家が低くなるわけですね。当然床上・床下浸水になるわけです。そういう所に問題があるかなと思っております。それから、これは河川工学になるんでしょうけど、河川・道路の専門家の方の意見も聞く必要があろうかと思っておりますが、素人考えでガードレールは無くてもいいんじゃないかと。先ほど冒頭で市長も言われましたように、コンクリートによる嵩上げを今のガードレールまで行けば、水が入ってこんように思うんです。その辺をご検討いただきということです。両端が市道になつとんですんで、小田川を挟んで。川幅を広くするということは至難の業で出来ないと思っております。従って先程言ましたような対策を講じて欲しいということです。追加事項として、私の町内ではございませんが、小田川水系の災害に関連して、現存の古い太鼓橋がございましてね、大正橋。これが太鼓になってますんで、そこがやっぱり障害物となって、濁流が溢れるということになると思っております。

2番目が倉敷市の防災。自主防災組織の組織率が非常に今低いですね。37パーセント位ではないでしょうか。何故こんなに低いのかという疑問があります。それで現在私ども、倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会というのを組織しておりますが、これは市全体です。そこで話が出てるのは、市による啓発の為の出前講座を計画してるように聞き及んでおります。その具体的なことがあれば、教えていただきたいということでございます。

それからこれは私事で申し訳ない。16年に60件言いましたねえ、床上・床下。それから今回34件。これには見舞金として、町内として、額を言いますけど1世帯あたり5000円をお出ししとるわけです。我々弱小自治会としては、非常に負担になっております。そういったことをご披露しておきます。以上色々と申し上げましたけれども、市長に於かれましては充分なご賢察をしていただき、早急な対策、実施をお願いするしだいでございます。今小田川水系を県会議員の先生にお会いした時に、お話を聞いたんですが、県レベルで何か抜本的な対策をやろうとしとることを聞きました。先ほど市長さんもおっしゃられましたが、具体的なものがあれば、教えていただきたいです。

《参加者Iさん》

まず冒頭。申し訳ないけど、50名の募集だったのがこれだけ大勢になっております。運用方法を考えてください。発言しようにも発言できないですから、いっぱい持ってきたけれども、やることがおかしいです。で、小田川。16年ですか、1回大潮と言われましたが、2回なっております。川幅が私の子どもの頃の3分の1になっとんです。これは行政の責任です。今の道路が全部川だったんです。36年に国体があった時に、天皇陛下が来たからといって小田川の西側を舗装道路でずっと造ったんです。あれが初めて、東側は道路がなかったです。それが今道路になっていますから、当然溢れます。そこら辺がずさんだと。それから防災に変えて、いっぱいあるんですが1つだけ言います。公民館はなくなっております。10日しかなくてないです。公民館の標識がまだあります。その所に避難場所の表示があります。おかしいじゃないですかと、1ヶ月も2ヶ月も前に市に言うとりま。まだ何ともなってないですし、地域住民に周知されてないです。これは、ええ加減ではないかと思いませんか。まだ、他があるけど、とりあえずこれだけ。

《参加者Jさん》

最近気が付いたことなんですけど、防災の関係で、注意報とか出た時に、前は無かったんですけどこの頃、市長さんの、皆さんこういうことがありますので、気を付けて下さいという放送がこの頃されるようになった気がします。結構この地区は一人暮らしのお年寄りが多いので、あれはすごく心の支えになるんじゃないかなと思います。有難うございます。それと東北震災の災害が皆さんの寄付なんかで、どういうふうになっているのか、知りたいのと、家族で話をしてて、この間の、こちらの災害もありますけれども、日本全国色々な災害がありますので、色んな市単位でよその市と姉妹都市縁組みたいなので助け合うことができないんだろうかなと。国が動くより早く動けるんじゃないかなと、そういう意見を聞くことがあったりしたので、ひょっと何か機会がありましたら検討していただけたらと思います。

《市長》

はい、どうも有り難うございました。結構沢山いただきましたので、お答えをしたいと思います。今、小田川水系の防災のこと、標識がまだそのままだというお話をいただきまして、早急に対応したいと思います。私もそこまでは気付いてなかったもので、申し訳ないと思っております。関係部署には言っているんですか。何か理由があるのかも知れませんが、公民館の標識があるのはおかしいと思いますので、とにかく調べます。

それでさっき川幅が3分の1になったと言われましたけれど、道があるのをまた川にするのは、なかなか難しいんですけど、今日、事前に書類も出していただいて、私も大正橋の所の太鼓橋の面積を、一つの例ですけれど計算してもらったんです。上から水が流れてきまして、あそこ曲ってますよね。現状で計算しますと、上から流れてくるものの約3分の1位、35パーセント位が下の足で遮られているようです。見た目の計算ですけど。今後、高潮の時の水害と、今回も土嚢を突いたりして対応したんですけれども、雨の量が増えた時に、あの大正橋の太鼓橋の設置の状況がどうなんだろうかと、少し思っております。勿論それを改修するなり、3分の1も水路が遮られるんだったら、地元の方が撤去した方が安全だと、もしなるのであれば、まだ検討してないんですが、それが可能なか皆さんのお話を伺って。あそこは一番、海に出る要の場所にもなってますし、カーブにもなっていて非常にポイントだと思っておりますので、検討する必要があるのではないかと、今思っております。それから、浚渫や土砂、ヘドロの点、それからガードレールの隙間の所。後で写真をいただければと思っておりますけれど、この小田川、これは先ほどお話がありましたが、県の管理です。県の管理だといって、勿論市が何もしないわけはありません。例えば、橋をもしどうするとなった場合には、市と県で協議をしないといけないですし、ガードレール、道についても市道ですので、市道との関係でどういう対策が取れるかということ、市と県とで協力しないと出来ないことです。ですので、前回60戸の浸水で今回34戸と言っていただきましたが、前は主に高潮からでしたが、今回は上からの内水の洪水だったと思いますので、今後ともその両方が起こる可能性があるということを入れて、検討していくことが必要だと市として思っております。

防災全般にはそう思っているんですけども、避難場所についても、最初少しお話をいただきましたが、元々避難場所は、こういう「我が家の防災マニュアル」やお家にあるこの青い「津波ハザードマップ」等と共に、また今回の東日本の震災を受けまして、抜本的に見直すこととなりますので、その時には全戸にお配りすることとなりますが。その中でも、今は公共施設を主に避難場所にしております。ただ、先ほどお話いただいたように、公共施設が遠い所もあります。それから最近で言えば、児島地区は、市民病院じゃなくて市の短期大学も避難場所にしておりますけれど、他の地区でも倉敷では川崎医療福祉大学とか、連島では倉敷芸科大学とか、玉島では作陽大学とかにお願いしておりますので、これから民間の施設についても避難場所として活用していきけるようお願いしていきたいと思っております。

最後に、他の市と協力をとってくださったんですが、今のところ県内全体で15市あるんですけど、市同士で、何かあったら近くから助けに行きましょうという縁組はしてるんです。まず普通だったらそれで大丈夫かと思うんですが、それ以上の災害が起こった時に、今回みたいにもっと遠い所と何か縁組をしないといけないかどうか、今後そういう観点でも検討をする必要があるかなとは思っております。具体的には考えてないんですが、

何かしらの協力関係が出来ればいいなどは思っております。それから注意啓発をするスピーカーのことは、言っていて有難うございました。

《参加者Kさん》

順番に3つほどお聞きしたいんですけど、1つですけど、このふれあいトークにテーマ「地域力を活かすまちづくり」、伊東市長はどういうことを念頭にしてこのテーマを選ばれたのかをお聞きしたいと思います。

《市長》

今日は災害のことが多くなってしまったんですが、地域の魅力をもっと伸ばす、それから地域のまちづくりをどうやったらもっとよくしていけるかについて、意見交換をしたりお伺いをしたいということでこれを選んでいきます。

《参加者Kさん》

解りました。この交流センターを造るのに、前は公聴会を開かれましたよね、3回にわたって。その3回のテーマは市民文化センターの建て替えだったと思います。20年の7月17日に、3回目の公聴会が開かれました。この時は、文化センターを今の所に造るか、それとも市民病院の裏地の公園と野崎さんの駐車場を借りて造るか、どちらか決めてくれというお話があったわけですが、それはどっちでもいい、調べていただければ。私は3回目だけに参加したんですが、その時に、何と理不尽なことを言うんだろう、もっと色々なことを考慮して、例えば橋の記念館の活用も含めて考え直したらどうか、と意見具申をしました。あて先は児島支所長とまちづくり推進課長です。出来たのが、この市役所の担当者の頭の中にあっただろうか知りませんが、最初の3回の公聴会とは似ても似つかないものが出来ているわけです。これはこれで、私は非常に良かったと思ってますけれども。私が問題にしているのは、今伊東市長が言われたように、その時に真摯にA4、6～7枚の提言書を出したにもかかわらず、何の接触も返事も無い。多分ゴミ箱に放りつけられたんだろうと思いますけれども、そういう市民からの真摯な提言を市は聞く体制にあるかどうか、これが問題ではないでしょうか。調べて、返事を聞かせてください。これが1つです。そういうことで、もうどうにもなりませんけれども、市の文化センターの建て替えも含めて、この地区の公共施設、それからここに集約したことによって、色々な空き地の施設が出来てますよね。公民館の跡地、(児島働く)婦人の家、(児島勤労)青少年ホール、色々あります。こういう跡地の利用計画が一向に示されないんですよ。これは非常に市民の不安・不満を助長すると思います。地域力を活かすまちづくりを推進したいのなら、こういう空き地の活用計画も市がある程度例を示して、よく市民の意見を聞いて、活性・活力のある児島が作れる様に努力していただきたいと思います。

《市長》

はい、どうも有り難うございました。後で調べさせてあげたいと思います。建物作成の時に、色々なご意見の伺い方をさせていただきまして、結果としてこれが建ったわけですが、勿論色々なご意見をいただきまして、なかなか全部反映するという事は難しかったわけですが、市の出来る範囲と市民の皆様のご意見の中で、なるべく多くのご

意見を取り入れて・・・

《参加者Kさん》

言を聞く態度が市に無いんじゃないかということです。それを問題にしているんです。

《市長》

なるほどですね。意見を伺うのも、勿論大変大きな意見をいただいたんじゃないかと思うんですが、いただいたご意見に全部がお答えできなかったんじゃないかというのが、問題だだと思いますので、また拝見をさせていただいて、今後のまちづくりに活用させていただける所を勉強させていただきたいと思います。有難うございました。

それから市の色々な跡地の利用計画については、また市民の皆様にお示しをしながら、造っていければと思っておりますので、大変貴重なご意見をいただきまして、有難うございました。

《参加者Lさん》

家は平成16年の台風でここまで浸水してきたんです。今日僕の言いたいのは、児島も含めて倉敷の観光を是非お考え願いたいと。倉敷といたら、全国的に知られているのは大原美術館等の美観地区ですが、平成元年に瀬戸大橋が開通し博覧会もあってある程度人も来ましたが、人が来た時に如何に児島・倉敷地区にもう一度来てもらうかと、大原美術館や瀬戸大橋だけという点でなく線で、出来たら面で。その為には人にアピールする点をつかまなければと思います。そこで是非市にプロジェクトチームを作って、考えてもらったらいいんじゃないかと。組織をつくるのに部長や課長では駄目。児島を含めた倉敷を活性化することを考えている、やる気のある若い職員に、自己申告してもらうわけです。40代では駄目で、20代、30代前半位の人を募って。市長が女性だからというわけではないけれど、女性の感性・感覚で、倉敷を活性化してもらいたい。

ところで、ハワイのサンセットクルージングは綺麗ですが、サンセットは何もハワイでなくても瀬戸大橋でも綺麗です。財政支出なんか全然することは無い。ポイントを若い人の感性で考えて是非児島も含めて倉敷をPR。それから中国には1千万の億万長者がおると言われとんですよ。そういうところも対象としたチームをとっている。

《市長》

有難うございました。Lさんから若い人と特に女性を活用した市の観光PRチームをしるということでございました。大変いいお考えだと思います。市でも、定期的にある課題毎に、皆で検討会をしたりするんですけども、その時に特に若い人20代、30代、女性をとということですね。率先してやっていきたいと思います。それから、中国については、私は非常に重要だと思っております、倉敷の観光拠点を見に来てくださる時に、勿論大原美術館も入っているんですが、児島地区の、やはり中国にはこういう海がある所がなかなか無いものですから、瀬戸大橋が見える鷺羽山とかを非常に気に入っておられるみたいですので、なるべくそこに連れて行きまして、来て貰える様に思っております。はい、有難うございました。

《参加者Lさん》

以前中国人が鷺羽山から瀬戸内海を見て、日本にも大きい川があるなとって、見たらしいですけど。

《参加者Mさん》

私は、倉敷中高年事業団に籍をおいて、各公園の清掃をいたしております。最近思いますが、観光客がルートとして鷺羽山へ、中国から、全国各地から、今相当増えてます。お話を聞くと、東京から毎年来られている夫婦がいらっしゃって、こんなにいい所は何処に行ったってありませんと、非常に喜んで景色を見て帰られるんですけど、残念ながら展望台の上の、レストハウスへ入るビジターセンターへ入る右手のトイレですね。私ら清掃するんですけども、もう昔ながらの汲み取りで臭いはきつく、夏場は虫も多いですし、折角、綺麗な景色を見て帰られるお客さんが、トイレに入られて幻滅されて帰られるのが現実なんです。これが何とかできないかなと。

それと観光ルートといたしまして、鷺羽山の王子が岳という話もありましたけど、もう1つ観光スポットとして、三百山というのがあるんです。ここも、つつじ、桜が春は非常に綺麗ですが、残念ながら来られる人が少ないんです。というのは電気が無い、トイレが無いと。PRの面も兼ねてトイレがなかったらどうしようもありませんし、できれば、もう直ぐそばまで、100mの所まで来とんです。一応ご検討くださったらよろしいかと思えます。

《市長》

有難うございました。さっき病院のことでも出ましたけれども、トイレは重要ですね。有難うございました。観光地の整備を進める中で、景色もですけどトイレの件についてもしっかり配慮したいと思えます。有難うございました。

《参加者Nさん》

医療福祉の点について、1点手短にお願いします。今全国的に、一人暮らしの高齢者の緊急時の対応をスムーズにとるために、医療情報キット、いわば命のバトンですね。この展開が始まっています。これは大変素晴らしいことだと思うので、児島地区でもこの問題を取り上げて、いわゆる地域ケア会議、児島の医師会、各地区社協、自治会等が立ち上がって、具体的に命のバトン設置に活動を開始しています。

岡山市ではこれの市の見解・方針が出ているらしいんですが、倉敷市として設置に関する統一的な見解、これは救急車・消防士の関係がありまして、ある程度まとまった地域での展開でないと意味が無いので、倉敷市として方針或いは方向付けがされるのかどうか。そのへんの見解があればお伺いしたい。

《市長》

有難うございました。ご存じない方もいらっしゃると思うんですけど、家で筒みたいなものに自分の例えば血液型とか、病気の状況とかを書いていただいて、それを冷蔵庫の中に入れておくというのが命のバトンです。それがありますよというシールを冷蔵庫に貼っ

ておいて、救急隊が来た時にそれを見たら取って普段の病状が判る仕組みです。倉敷市内でも、真備地区では今始まっているんですが、地区によってまだ取り組みが違うんです。市でやる部分なのか、地区の社会福祉協議会と協力してやる部分なのかで、今後の取り組みについて、検討している所でございます。方針はまだ出てないんですが、今後の健康社会の中では、とるべき1つの方策ではないかと思っております。まだ、方向性は出てないんですが、ご意見をいただきましたので、しっかり検討したいと思っております

《参加者 O さん》

市民病院のことについて、一言だけ。昨年大病を患って、江田先生に助けていただいて、うつ病になるかと思っていたのが、このようにピンピンして元気になりました。

私からは、下電軌道敷跡の利用について。今、私たちは児島小学校区の中で、大正橋から稗田までの区間を整備したり色々なイベントをしたりして、市長さんにもコスモスの種蒔きにご出席いただきました。有難うございました。それでこの軌道敷跡は、下津井から味野までは「風の道」としてかなり有名な道になり、また市からもいろいろご援助いただいていると思うんですが、それに対抗するわけではございませんが、そこの大正橋から茶屋町まで各地域をボランティアで整備して、最終的な結果は日本一長い公園とか、重要な形でPRして、本日のテーマである「地域力を活かすまちづくり」として、市がどうこうではなくて、地域から盛り上げ、市が最終的に公園化して、皆さん方に少しでも整備していただくことについての補助を出しましょうとか、というような形で。何か1つ児島から発信できるようなPRとっていいですか、そういうことを考えていけたらどうかなあと。是非ともこの問題について市長さんにも力になっていただきたいと思っております。

《市長》

はい。有難うございました。直ぐ検討できるものではないので、ご意見をお伺いするだけですけども、大変貴重なご意見有難うございました。

《参加者 P さん》

岡山県の地域共生サポーターとグローバル広場児島の日本語教室のボランティアをしています。企業が多い関係で、研修生とかの外国人の方が沢山住んでいるのと、国際結婚される方が多くて、沢山の外国の人が、日本語がほとんどわからない状況で来られて、支援してるんですけど、国際交流会館とはいかなくても、国際交流ができる、お金がかからなくて、皆が集える所があったら嬉しいと思います。よろしくお願いします。

《市長》

この市民交流センターはどうでしょうか。

《参加者 P さん》

市民交流センターはお金が要ります。

《市長》

判りました。外国の方へのサポート、大変有難うございます。今倉敷市内でも48万人

の人口の内の約5千数百人が外国人の方になっておりますので、外国人の方へのサポートも非常に重要な行政課題になってきていると思います。直ぐにお返事ができるわけではないんですが、今色んなボランティアとして活動していただいている皆さんと一緒に、もっと外国人の方へのサポートが出切る様に何か検討していきたいと思います。有難うございました。

《参加者Qさん》

繊維の関係について一言簡単に言います。児島はご承知のように昔から学生服とかワーキングウェアとか作って発展してきました。それで私たちの責任でしょうけど、後継者や後継企業がもう衰退してしまいました。これを活かす方法として。今高齢者が割りと多いですが、服を着るのにジーパンか替えズボンか、女性だったら古いものを出して着ているような状況で、もっと遊び着をカラフルなものとか、色んなものを買いたいわけです。ところが何処に行っても無いわけですが、技術・素材・地場産業がある。ただいないのはリーダーだけです。活力のあるリーダーをつくって、高齢者に向くような色んな服を出せば需要があると思います。是非市長さんからお願いしたいと思います。

《市長》

貴重なご意見有難うございました。児島の大変重要な産業である繊維産業のことについて、ご意見いただきました。商工会議所と連携して進めていかないといけない部分だと思いますが、繊維産業は児島、倉敷市にとって欠くことのできない産業だと思っておりますので、それが進んでいくように思っております。

《参加者Rさん》

7年前の台風の時も、海からと上からとで家が床上浸水になりました。この度も床上浸水となりました。県と市で検討していただいて早くいい解決をしていただきたいと思います。それと本題ですが、私は児島のひかり児童クラブの運営委員長をしております。前回の時も台風で、運動場が膝まで浸かりました。その後児童数の増加で、狭い運動場の隅っこにプレハブを建てていただいたんです。その時に台風で浸かってますから、今回も運動場の中心が一番高くて端になるほど斜めになっていますから、浸からないようにしてくださいと本当に話し合いをしました。その時に45cmは必ず上げると言われたんです。そして出来たら、この度も浸かりました。45cmは全然採ってなくて、低いものになりますので、空気孔がバリアフリーで雨が降るたびに、床に全部入ります。それで下駄箱なんか全部びしょぬれで、それで市にお願いしたら財政が厳しいんでなかなか通らなくて、やっと、あれは側溝を付けていただいたりしたんです。だから今はどうにかやっていますが、この度は床がすれすれで上には上がらなかったんですが、下駄箱はびしょに浸かりました。それで、市の工事に出された時に検査というのはされるのでしょうか。

《市長》

はい、します。

《参加者Rさん》

結局、下を掘りすぎとるから、そこから基礎工事したら45cmというものが低いものになってます。うちは児島小学校の中でも一番児童数が多いので、71以上は2つのクラブに分かれました。場所が無いもので、その4~5軒の建物を、真ん中を仕切って1と2としました。その時に最初に造って頂いた畳が入ってます。今度2の方が出来ました。そうしたら畳の厚さが全然違って半分以下という工事をされてるんです。選挙でプレハブを建て、選挙が終われば取り払われるからそれでもいいんですが、うちは半永久的に使わせていただくプレハブです。それで、何処やかしこがお粗末です。一昨年前ですか、おしめをした障がい児が入りました。私たちは運動場の隅ですから、学校に昔からあるトイレを使っていますが和式しかないもので、その子は座れません。お願いしてやっと洋式のトイレを1つ付けて貰ったんですが、それもただ付けてくれたというだけで、子どもたちが便所の掃除をしてくれるのはいいんですが、扉の所まで行って中に入ったら、もう奥が低いもので水浸しなんです。そういう工事を色々とやられてきてます。財政が無い中で、本当に厳しいと思うんですが、最初の基礎、検査、ちゃんとしっかり見ていただいて、少ない財政でやっていただくので私たちは有り難いんですが、そういう工事をやられるんで市長さんに是非お願いして、検査をしっかりしていただいて、やっていただきたいと思います。

《市長》

判りました。有難うございました。私も、底上げを45cm、業者との契約がどうなっているのかまでは、見てなかったもんですから。ひかり児童クラブとも今度、福祉部局にまた聞いてみたいと思いますし、検査は一応しておりますが、検査に合格していなければ、やり返してもらわないといけないわけですので。子育てについては市でも、なるべく予算をと思っておりますので、厳しい中でもがんばっていきたいと思います。

今後も、児島のまちづくり、色んな場でご意見をいただく場もあると思いますので、どうぞこれからもよろしくお願ひしたいと思います。今日は児島の羽原支所長も来ておりますし、皆様のご意見も一緒に伺っておりますので、また市役所の支所、本庁でもご意見をいただければと思っております。今日は大変皆様、有難うございました。